

第5章 ビール類

第1節 ビール類の需給動向

ビール出荷の推移は30年前の1987年に初めて500万klを突破、間髪入れず89年には600万kl台に乗せ、その5年後の94年には史上最高の713万5,020klを記録するなど、順調そのものだった。ビール酒造組合のデータでも、ようやく200万klに届きそうだった65年から猛暑特需に湧きピークとなった94年までの30年間で、出荷量が前年実績を割ったのはわずか3回。右肩上がりの経済成長と、その根底にあった継続した人口増がもたらした恩恵でもある。

ビール出荷がピークだった94年の秋には発泡酒が一部地域で登場、翌95年には全国展開され、事実上初の新カテゴリー誕生となったが、ビール単体の出荷は6%減少。以降、翌96年に1%だけ回復したのを最後に20年間連続で減少し、2016年はピーク時の約37%まで縮小した。

ビール・発泡酒では、発泡酒が全国展開された95年の合計出荷は691万kl。前年比3.1%の減少。前年猛暑の反動が主因だったが、以降は、発泡酒が順調に拡大を続けた96年から2001年までは小幅増減を繰り返しながら710万kl前後を堅持していた。

それが、02年をキッカケに状況が一変した。同年の出荷は2.6%減の693万kl、7年ぶりの700万kl割れだった。翌03年も6.3%減の650万kl。同年には新ジャンルが一部地域で登場、翌04年には全国展開で急拡大、ビール・発泡酒・新ジャンル合計の同年出荷は0.8%増となった。しかし、以降は一貫して減少が続き、09年には600万kl割れとなった。ビール単体で叩き出した94年最高値を100とすれば、直近16年の3カテゴリー合計出荷525万kl強の指数は73.6。安価な発泡酒が急増、それ以上に低価格な新ジャンルが台頭、急拡大しても、ビール単体で作りに上げた最高値より約26%も市場が縮小したことになる。なお、8年連続でプラス成長をみせた発泡酒も、03年には1%ながら減少に転じ、新ジャンルの勢力拡大が続いた。カテゴリーとしてピークとなった02年の発泡酒出荷は257.6万kl、16年はその28%程度

まで縮小している。しかし、登場以来、その安さを武器に急成長を続けてきた新ジャンルにも転機が訪れている。11年～13年の伸長率は1～2%にトーンダウン、「プリン体0・糖質0」商品の登場で徐々に発泡酒がプラスとなった14年以降は減少に転じている。

総市場が連続して縮小している最大の要因は、飲酒人口の高齢化と若者の酒離れで酒類全体の消費が減っていること、さらには全体としては05年から、生産年齢はすでに90年代後半から始まっていた人口減少の影響が大きい。また、相変わらず拡大を続けるチューハイなどのRTDとウイスキー・ハイボールや、グラス売りなど飲用シーンや低価格帯への広がりを見せているカジュアルワインなどへの消費シフトが業務用・家庭用双方の市場に進んだのも一因だ。

こうした消費停滞の打開策として注目されているのがクラフトビールだ。大手4社も、取り組む姿勢こそ違え、それぞれでクラフトビール事業の拡大に注力しはじめている。一致している見解は、「主流にはならないが、刺激には有効」ということだ。だが、そもそもクラフトビールの愛飲者と、一般的なナショナルブランド愛飲者の間には相容れぬ嗜好があることから、その効果については疑問とする意見も少なくない。ちなみに、現時点でのクラフトビールは、一般的なビール類の1%不足と言われている。

表5-1 ビール類の月別課税移出数量

[ビール]

(単位: kℓ, %)

月別	2014年				15年				16年			
	数量	前年比	累計	前年比	数量	前年比	累計	前年比	数量	前年比	累計	前年比
1	142,007	110.0	142,007	110.0		87.8						97.1
2	172,807	103.0	314,814	106.1		97.9						98.1
3	236,794	116.7	551,608	110.4		86.3	503,404	91.3			498,112	98.9
4	195,750	85.7	747,358	102.6		112.4						103.2
5	218,402	97.4	965,684	101.4		101.7						92.9
6	252,936	96.0	1,218,620	100.2		102.8	1,205,403	98.9			1,210,023	100.4
7		96.3				96.5						97.0
8		92.8				100.6						100.2
9		99.4	1,959,770	99.0		105.6	1,948,757	99.4			1,919,023	98.5
10		98.5				102.4						93.4
11		95.5				101.2						100.4
12		103.3	2,716,871	99.0		101.5	2,720,594	100.1			2,667,489	98.0

[発泡酒]

月別	2014年				15年				16年			
	数量	前年比	累計	前年比	数量	前年比	累計	前年比	数量	前年比	累計	前年比
1	39,947	103.5	39,947	103.5		111.4						79.2
2	53,064	99.4	93,011	101.2		106.5						98.4
3	72,933	118.8	165,944	108.2		88.9	166,571	100.4			148,084	88.9
4	48,299	71.9	214,242	97.2		140.8						91.5
5	59,433	89.6	273,675	95.4		109.6						92.2
6	59,664	92.1	333,339	94.8		123.6	374,659	112.4			341,850	91.2
7		106.6				94.5						94.8
8		107.1				89.6						98.5
9		124.1	560,935	101.7		86.3	573,964	102.3			537,668	93.7
10		115.6				90.5						89.4
11		108.8				90.9						99.9
12		117.2	776,014	104.4		98.1	778,093	100.3			725,460	93.2

表5-2

ビール類の月別課税移出数量

[新ジャンル]

(単位:kl, %)

月別	2014年				15年				16年			
	数量	前年比	累計	前年比	数量	前年比	累計	前年比	数量	前年比	累計	前年比
1	102,698	111.2	102,698	111.2		97.5						87.4
2	145,653	102.4	248,351	105.9		92.8						103.2
3	201,728	115.9	450,079	110.1		75.0	391,629	87.0			375,267	95.8
4	128,702	73.1	578,780	99.0		122.6						109.2
5	185,685	105.0	764,465	100.4		89.8						95.2
6	175,734	90.5	940,199	98.4		103.6	898,172	95.5			888,749	99.0
7		97.8				95.3						93.6
8		85.6				99.7						104.5
9		90.5	1,445,563	96.5		100.5	1,393,298	96.4			1,378,432	98.9
10		94.9				102.4						97.2
11		92.7				99.1						102.3
12		94.8	1,913,875	95.6		106.1	1,880,831	98.3			1,857,972	98.8

[総合計]

月別	2014年				15年				16年			
	数量	前年比	累計	前年比	数量	前年比	累計	前年比	数量	前年比	累計	前年比
1	284,652	109.5	284,652	109.5		94.6						90.5
2	371,524	102.3	656,176	105.3		97.1						100.1
3	511,455	116.7	1,167,631	110.0		82.1	1,061,604	90.9			1,021,463	96.2
4	372,751	79.0	1,540,380	100.5		119.7						103.5
5	463,520	99.2	2,003,824	100.2		98.0						93.6
6	488,334	93.5	2,492,158	98.8		105.7	2,478,235	99.4			2,440,622	98.5
7		98.1				95.8						96.6
8		92.1				98.7						101.4
9		99.2	3,966,341	98.4		100.4	3,916,019	98.7			3,835,122	97.9
10		99.5				100.5						94.2
11		96.2				98.9						101.0
12		102.3	5,406,730	98.5		102.4	5,379,518	99.5			5,250,921	97.6

注) ビールはビール酒造組合調べ。発泡酒と新ジャンルは発泡酒の税制を考える会調べ。ともに5社計。14年下期からビール酒造組合と発泡酒の税制を考える会の発表が3ヵ月単位に変更。14年7月以降の前年比は日刊経済通信社の推定値(大手4社の販売ベース)。